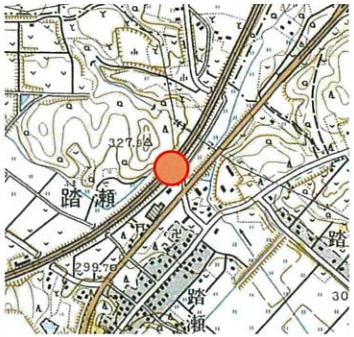
県指定　史跡　　指定日：昭和48年３月23日

8. 観音山磨崖供養塔婆群

〔踏瀬区共有〕泉崎村大字踏瀬字観音山



踏瀬観音山磨崖供養塔婆群は、今から約700年前の鎌倉時代につくられた仏教彫刻です。自然の崖面に仏教の経典にある梵字(サンスクリット語)が書かれた塔や阿弥陀如来像などの彫刻がつくられています。仏教には「逆修」という教えがあります。逆修とは、生きている間に仏教の修行をして功徳を積めば、死んでから極楽浄土に行くことができるという教えです。

この遺跡がつくられた鎌倉時代は、戦乱の世でした。日々くりかえされる戦争には一般庶民も強制的に参加させられ、当然したくない殺生（人を殺めること）もせざるをえませんでした。

仏教では殺生は禁じられており、悪行を重ねると地獄に落とされてしまいます。そこで、少しでも功徳を重ね悪行の罪を軽くしようと残されたのがこの供養塔であると言われています。

高速道路が出来る前の踏瀬観音山

現在の踏瀬観音山磨崖供養塔婆群の上は高速道路が通っています。上の写真は高速道路が建設される前の観音山です。写真の下には磨崖仏、その上にいくつか穴が開いています。この穴は、実は古墳時代につくられた横穴墓なのです。

仏教において功徳をつむ一番の方法は、何かを供養するためにお経を唱えたり、仏教の神様を祀ったりすることです。しかし、現代の墓参りのように亡くなった家族の供養するのは当たり前のことで功徳にはなりません。

そこで、誰だかわからない人のお墓(横穴墓)に葬られた人を供養するためにこの磨崖仏がつくられたと考えられます。

浮彫阿弥陀三尊来迎像